

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第八小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標達成に向け、校長の学校経営方針を全教職員に浸透させるため校長室だよりを配付して、教職員が共通理解・共通行動ができるようにした。</li> <li>同じ学年でも、別のクラスの様子は分かっていない部分があり「全体で組織的に」という点においては改善が必要かと考える。</li> </ul>	A	学校だよりで校内の様子やスケジュールを伝えてくれているので、わかりやすい。HPでも活動を広めてほしい。教育目標はすばらしく、給食で特に実感している。理念を各教科指導等にも浸透させることは今後進めてほしい。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間事故防止計画に基づき、時季ごとに起こりやすい事故について各学級で指導をしてきた。</li> <li>生徒指導上の問題などが起きた際は、管理職がリーダーシップをとり、迅速にチームで対応した。</li> <li>生徒指導アンケートの定期的な実施により、教育相談の機会を作ったり、いじめの未然防止につながるように、各学年で対応を考えたりしている。</li> </ul>	B	鍵や警備など大人が配慮することははしても良いですが、小学生なので避難訓練などで自身を守るスキルを取得することが大切なのではないか。正門昇降口のセキュリティの強化が必要だと感じます。朝一人で登校している児童を見かけます。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年ごとに詳細に指導内容を検討、基礎学力が身につけている児童が多いので、応用力を付けるための取組を充実させていく。</li> <li>教職員の指導の工夫と家庭での取組(学習塾や通信教材)の両輪で本校の学力の高さが保たれている。</li> <li>スクールサポーター、低学年補助教員等とも連携を図り、基礎学力向上に取り組んだ。</li> </ul>	B	我が子が在籍していたときは補助の先生の指導が良かったと言っていました。担任のみで難しいときは補助の先生が頼りになります。学習習慣のためならば、むやみに宿題の量を増やさず最小限にするのも方法ではないか。周囲を見ていると親の焦りが教育虐待になっているのではと思うこともあります。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力・学習状況調査結果を分析し、一人一人の児童の実態に則した指導が行えるよう授業研究、授業改善を行ってきた。学力向上プロジェクト教員が担当学年の指導に組織的に関わり、一人一人の学力の向上に努めている。</li> <li>朝霞市教育奨励費受給者研修や朝霞市の教科主任会の研修では、教員の指導力向上とともに、児童の学力向上のための授業改善を行いながら、実践を行った。</li> </ul>	A	我が子が在籍していたときは補助の先生の指導が良かったと言っていました。担任のみで難しいときは補助の先生が頼りになります。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>やくそくやきまりを守って行動し、来校者や職員へのあいさつ、受け答えも礼儀正しくできる児童が多い。</li> <li>生活リズムが乱れている児童が多くなってきているように感じるが、児童の心の負担を緩和させながら規則正しい生活を崩さないよう指導した。</li> </ul>	A	あいさつがよくできていると感じます。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部会で児童の情報共有を行い、児童の実態をよく把握し、よさを認めながら規律ある態度を身につけさせることができた。</li> <li>生活目標への取組を通して規律ある態度の育成に取り組んでいる。</li> <li>家庭と連携して、生活習慣・メディアとのかかわり方・心の健康などについて取り組んでいく。</li> </ul>	A	小一ギャップなのか、低学年の先生が怖いという話しは各所で聞くことがある。不登校も増えていることからもう少し幼児期からの接続を丁寧に行う必要があるのではと思います。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級でのレク活動や外遊びを奨励したことで意欲的に外での活動や運動に取り組むことができた。</li> <li>運動会や縄跳び大会に向けて、学級や学年で目標やテーマを掲げ児童が主体的に活動することができた。</li> <li>今後も体育の授業や外遊びを通して体力をつけたり、人とのつながりを育てたりしていきたい。</li> </ul>	A	朝休み、サンサuntimeに外遊びをする児童が多く問題ないと思います。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会や体育の授業等、意図的な活動を講じているが、本校の環境を考えるとより効率的な取組が必要である。</li> <li>体力を高めるため、授業での運動量を確保したり、外遊びを奨励したりした。</li> <li>運動技能向上のため、鉄棒教室、跳び箱教室など各種運動教室を実施した。</li> </ul>	A	長期休業期間に体を動かす機会として「なわとびカード」等が提供されたことは良かった。「運動」:と限定せず、学校農園や校舎の掃除などを体を動かす機会として捉え促すとより子供たちも取り組みやすいのではと思います。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会の委員の方々の感想や意見を参考にし、保護者、地域の方々と協力しながら学校運営に取り組んだ。</li> <li>校内の美化活動、家庭科授業でのミシン実習、読み聞かせ、学校ファームの活動、ふれあいまつり、昔遊びの会等、保護者と先生の会や八枚のはねの皆さんの協力のもと教育活動に取り組むことができた。</li> </ul>	A	コロナ禍を経験して、地域との関わりが少なくなったように思いますが、改善されてきていると思います。
	10	保護者や地域は、学校と協力的で、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域の方にパトロールをしていただき、児童が安心して登下校できている。</li> <li>スクールガードリーダーによる見回り活動は定期的に行われており、不審者情報等はすぐに情報提供をしていただくなど、児童の安全確保のための連携がとれていた。</li> </ul>	A	学校応援団への参加(読み聞かせ、ミシン、のこぎり、海外)が少ないときには、応援団からではなく、学校として募集するか保護者と先生の会からの募集にする方法もありかと思えます。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満